

## 狭山にゆかりのある文化人紹介 その14

# しみず そう とく 清水 宗徳

実業家・元衆議院議員

1843(天保14年)～1909(明治42年)

### 1. 狭山市とのかかわり

上広瀬村の名主清水寛一の長男に生まれる。幼い頃から才能にすぐれていたという。漢学や国学、和歌、書道を学ぶ。20歳で上広瀬村の名主役を継いで、村のために尽くす。



清水宗徳(明治20年頃)

### 2. 主な業績

#### ①養蚕の奨励

広瀬地方は絹織物が盛んで、昔から斜子織(ななこおり)の産地であった。常に村の活性化を心に置いた宗徳は、養蚕を奨励。村の荒地を拓いて桑の苗木を与えて栽培させた。



斜子織りの石碑(広瀬神社)

ななこ織  
広瀬の波の  
あやなるを  
たれ川越の  
名に流しけむ

#### ②器械製糸工場の設立と斜子織の改良

製糸場の建設設備等を研究し、埼玉県内初の器械製糸場を設立した。妻のせき子は村の子女数名をつれて、前橋の製糸工場に見習いに行き、その仕事を伝えるという熱心さであった。すでに上広瀬を中心に絹織物が盛んであったが、織物は川越に集められて江戸に出荷、「川越斜子」として売られていた。しかし「斜子織の本場は広瀬である」として宗徳は更なる品質改良に取り組み、「広瀬斜子」として販路拡大に努めた。

#### ③学校を開く

宗徳は教育の大切さを早くから説き、1872(明治5)年の学制発布に先立ち、狭山市内で最初に「広瀬郷学校」「幼童学校」を設立している。

#### ④県会議員・国会議員

1879(明治12)年埼玉県会議員に、1890(同23)年第1回衆議院総選挙で国会議員となり、勸業・社会資本等の充実につとめた。

#### ④鉄道の敷設

宗徳は、国土の発展と産業の発達を図るには何よりも交通機関の整備が必要との強い信念をもつ。川越から入間川・所沢を経て国分寺に至る鉄道の敷設に執念を燃やし、1895(明治28)年全線を開通させた。これを契機に入間川町は穀物の集積地として発展し、町内には米穀などを扱う商店が増えた。さらに水富村や飯能町の人々は、入間川～飯能間を結ぶ交通機関の敷設を要望し、宗徳によって設立されたのが入間馬車鉄道であった。また、馬車鉄道に面した所に牧場を構え、乳牛飼育・搾乳販売の先駆者となる。

### 3. 特筆

俳句に長じ、号は不朽軒義同(ふきゅうけんぎどう) 「伸びすぎて 取り残さるる 土筆かな」

1909(明治42)年67歳で歿した。墓は広瀬の台地に葬られ、墓の下には馬車鉄道で使われたレールがある。

文責:小川豊子

### 編集後記

- ★新型コロナで2年間中止の市民文化祭が今年は開催。私も民謡とハーモニカで参加。マスク姿での唄でしたが、発表の機会が出来たのは有難い。来場者がまばらで盛り上がりには欠けたのは仕方ないか。
- ★亡くなった水村昭一さんとは、同じ町内の仲間達の会で山菜採りして広い屋敷の庭で宴会したり、東京の美術・名画めぐりの案内等、なつかしく思い出します。晩年は車で送迎もしてあげることが出来ました。ご冥福をお祈りします。
- ★来年こそ市民芸術祭や桜まつりの無事開催を願っています。(高沢正夫)